

しょうが

一般に新生姜と呼ばれるものは2通りあり、一つは秋に根生姜の収穫をしますが、収穫後すぐに出荷される色白の物。もう一つが甘酢漬けなどにされる夏のうちに収穫され、赤い茎の部分が付いているものです。

5月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「生き生き健康野菜づくり」より

作型 低温、乾燥に弱いので植え付ける場所を考慮する。病気がない良い種しょうがを用いる。生育適温は25～28℃、12℃以下では生育が困難である。腐敗病を回避するため、連作はしない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
普通栽培					△						■	■	三州・谷中・金時・おたふく

△：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 a当たり	
油粕	10kg
畝立時施用 (芯肥になるようにする)	

- ・畝幅60cm
- ・株間20cm
- ・畝底に元肥を施用し、畝を作り、芽を上にして深さ5～8cmに植え込む。
- ・地温が15℃以下では腐敗しやすいので早植えはしない。

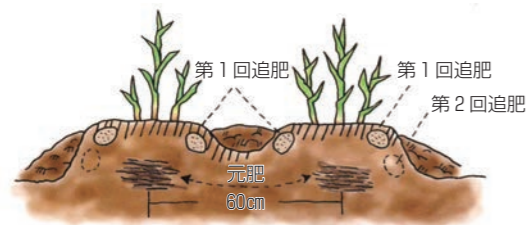
種しょうがの準備

(病気がない、しまりの良いものを選ぶ)
60～70gの大きさに割る。
芽出してから植えても良い。



追肥・土寄せ・敷きわら

- ・梅雨明け頃、第1回(草丈15cm)野菜専用肥料6kg/aを畝肩に施し、土寄せする。
- ・第2回目は(草丈30～40cm)の時に野菜専用肥料4～5kg/aを施し、土寄せする。



- ・乾燥を防ぐため、敷きわらを敷く。
- ・7～8月の乾燥時には、夕方灌水する。
- ・過湿にすると腐敗病にかかりやすいので注意する。



防除

病虫害名	耕種防除	薬剤防除
アワノメイガ	早期発見し、ふ化後の幼虫が分散するまでに、被害葉を除去する。	オルトラン水和剤(1,000倍) 45日前まで2回以内

収穫

- ・天気のよい日を選んで行う。
- ・茎葉を1束につかんで引き抜いて掘り取る。
- ・新しょうがは細根をとってからきれいに水洗いする。
- ・収穫時期の違いによっていろいろな楽しみ方ができる。

貯蔵

- ・病気にかかっているもの、ひび割れのもの、肌の悪いもの等は除き、健全なものを貯蔵する。
- ・さつまいもに準ずるが、温度はやや高めとする。

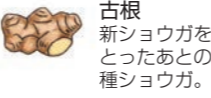
矢しょうが
筆しょうがともいう。
葉が3～4枚開いたころ古根を地中に残したまままき取る。次々ととれる。



根しょうが
新しょうがともいう。
晩秋になり、根が十分に肥大してから掘り取る。



葉しょうが
谷中しょうがともいう。
新しい根が少し肥大したころ抜き取る。



雑草図鑑 セリ・タカサブロウ

5月の農作業

セリ

セリ科の多年草で生長期が1～11月。別名、シロネグサ(白根草)と呼ばれ、種子でも繁殖するが、株や地下茎は越冬し、気温が10℃前後になると生育を開始する。茎は多少、枝を出し、高さ20～50cmとなり、葉にはあい切れこみがある。7～8月に茎の先に径3～5cmの白い花を咲かせる。繁殖力が強く、水田では、耕耘や代かきにより、越冬株や地下茎が切断され、それらが広がって再生する機会が多く、休耕田では一面に増殖することもある。湛水状態で生育は抑えられるが、水持ちの悪い水田では生育が続き、落水後再び生育は旺盛となる。防除には、初期除草剤を使用し、草が残った場合は中期剤または後期剤を使用する。乾田直播栽培などで多発する場合は茎葉処理剤で初期防除に努める。



用水路脇に生育するセリ

防除のポイント

生育期の除草剤散布では効果が劣るので、発生前～発始期に散布を行う。1回処理剤ではパットフルエースLジャンボやトップガンGT1キロ粒剤51、2回処理剤では1回目のショキニーフロアブルは田植後1～3日以内に散布し、2回目のマメットSM1キロ粒剤は田植後15日以降に使用することで効果を上げる。後期剤ではバサグラン粒剤が有効である。



圃場に群生するセリ



水の中で生育するセリ

タカサブロウ

キク科の一年草で生長期が4～10月。別名をボクトソウ(墨斗草)やモトタカサブロウと呼び水田雑草として水田、水辺、畦畔沿いや田面の露出した部分に多く見られ、その他湿気の多い土地に生える。草丈は30～60cm程度の大形雑草。花が円盤状で周囲を舌状の花が縁取り、果実には綿毛がなく、基盤の目のような平面に並ぶ様子など、小さいヒマワリを思わせる形態をしている。葉の縁はギザギザした形状をしており、茎は円柱状で直立し、全体に短毛がありざらつく。代かきを丁寧にし、落水しないように注意するほか、もし発生したら落水して、一年生広葉雑草に効果のある除草剤を早めに散布する。



水田に群生するタカサブロウ

防除のポイント

生育期の除草剤散布では効果が劣るので、発生前～発始期に散布を行う。1回処理剤ではパットフルエースLジャンボやトップガンGT1キロ粒剤51、2回処理剤では1回目にショキニーフロアブルを田植後1～3日以内に散布し、2回目にマメットSM1キロ粒剤を田植後15日以降に使用することで効果を上げる。後期剤ではバサグラン粒剤が有効である。



タカサブロウ(花)



タカサブロウ(生育後期)

※農薬使用の際は、使用方法・使用時期をよく確認して使用しましょう。